

神納東地域 住民アンケート 分析レポート

～結果から何が見えてくるか？～

平成29年11月
NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

神納東地域

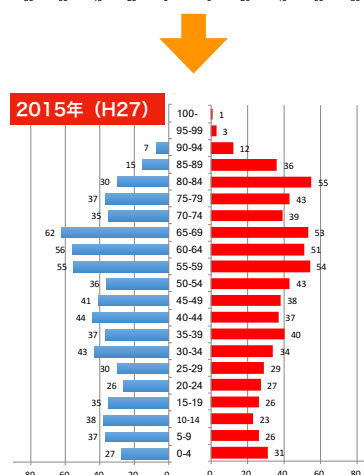
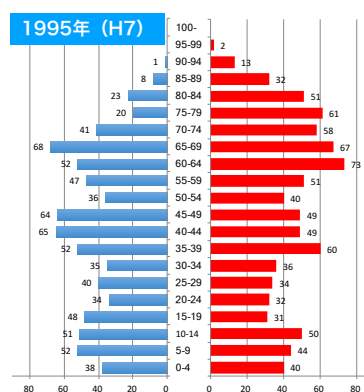
国勢調査データから見る過去20年間の人口推移

神納東地域の人口ピラミッドの推移

	← 国勢調査データ →				独自推計値	
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年※
総人口 (人)	1,648	1,550	1,523	1,485	1,392	1,337
	20年間で15.5%減少				▲ 55	
0～14歳 (人)	275	240	215	184	182	179
	20年間で33.8%減少				▲ 3	
15～64歳 (人)	928	920	889	852	782	722
	20年間で15.7%減少				▲ 60	
65歳～ (人)	445	390	419	449	428	436
	20年間で3.8%減少				8	
高齢化率	27.00%	25.16%	27.51%	30.24%	30.75%	32.59%
(再掲) 75歳～ (人)	211	162	209	261	239	222
(再掲) 85歳～ (人)	56	43	53	72	74	91

※国勢調査データを基に都岐沙羅パートナーズセンターが独自に推計した数値

(参考) 2015年の高齢者率 新潟県平均：29.85%／全国平均：26.63%



神納東地域もじわじわと少子高齢化が進展している！

中学生以上の全住民アンケートの実施

神林地区の5つのまちづくり協議会が同時に実施。

【神納東地域】

配布数：1,246通

回収数：997通

回収率：**80.0%**

かなりの高回収率！



地域住民の意向がしっかりと反映されているデータである

神林地区 まちづくりアンケート

～皆さんの声をお聞かせください～

神林地区にお住いの皆さん、こんにちは！暑くなってきましたが、元氣でお過ごしでしょうか。

さて、**神林地区のまちづくり協議会**では、地域で暮らす皆さんから、日頃思っていることやご意見をお聞きし、これからもみんなで地域を元気にする取り組みを検討していくため、**中学生以上全員を対象としたアンケート**を行うことにしました。「あら、わがみねえ」なんて言わずに、思っていることをそのままお聞かせください。

平林中学校と神納中学校の生徒の皆さんは、学校でアンケートを記入してもらうので、ご家庭へはアンケート用紙を配付していません。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。

(年齢)	1. 13～19歳	2. 20～29歳	3. 30～39歳	4. 40～49歳
	5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70～79歳	8. 80歳以上
(性別)	男性	女性		

問2 あなたのお住まいはどの地域ですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 平林地域	2. 砂山地域	3. 神納地域	4. 神納東地域	5. 西神納地域
---------	---------	---------	----------	----------

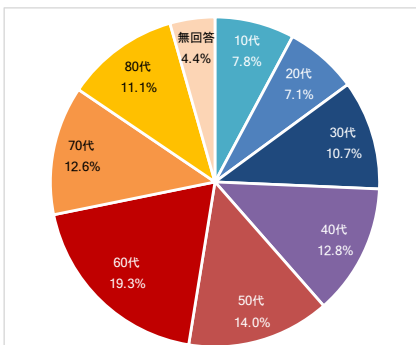
問3 あなたの仕事にあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 農業	2. 林業	3. 漁業
4. 自営業	5. 会社員	6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト	8. 専業主婦(夫)	9. 中学生
10. 高校生・高専生	11. 大学生・短大生・専門学校生	
12. その他()	13. 無職	

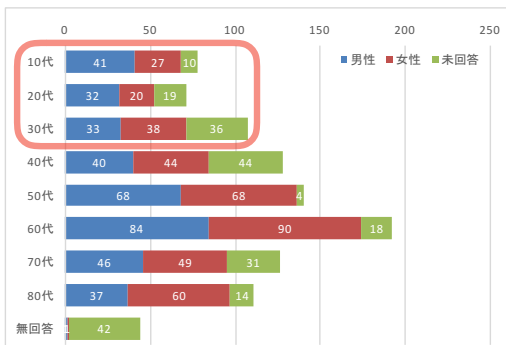
1

回答者属性

回答者属性（年代別）



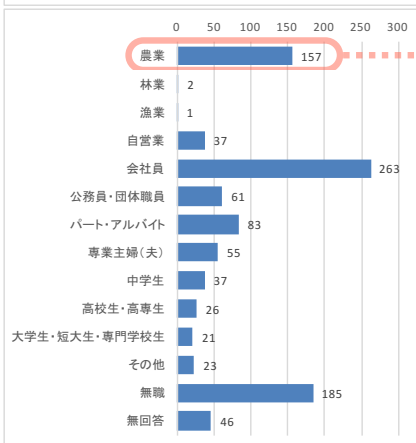
回答者属性（年代別×男女別）



若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。

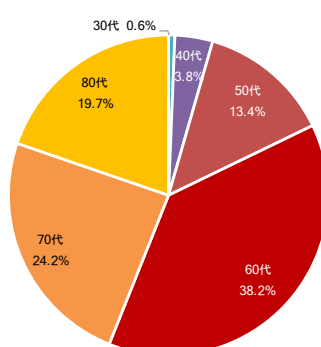


世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！



回答者属性（職業）

農業従事者の年代構成（割合）



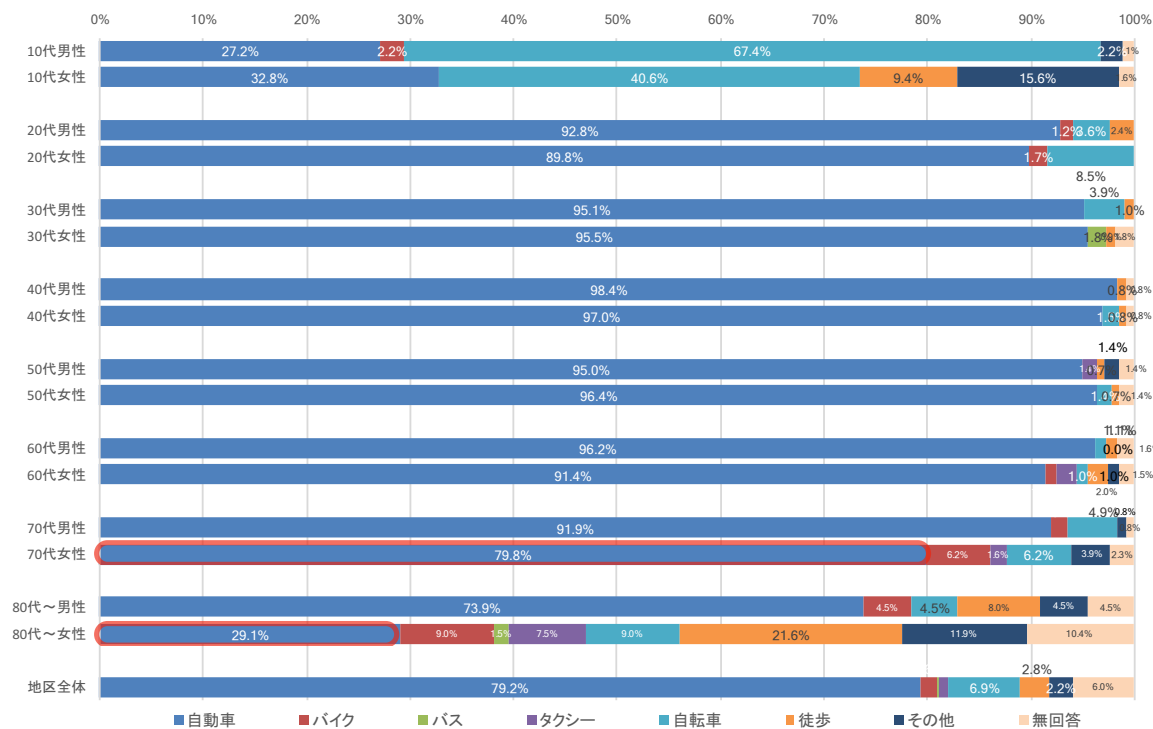
農業従事者の年代構成（人数）

年代	人数
10代	0
20代	0
30代	1
40代	6
50代	21
60代	60
70代	38
80代	31
計	157

農地の維持管理はどうなりますか？

農業従事者の82.1%が60代以上 → 20年後は60人程度!?

年代別・男女別の日常的な交通手段



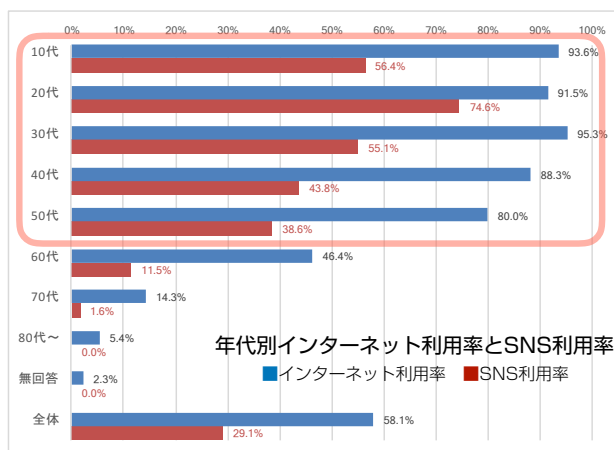
日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

80代になると車を運転する人の割合が減少（特に女性）
（70代→80代：男性18.0%↓、女性50.7%↓）

（要確認）80代女性の運転免許保有率

インターネットの利用割合

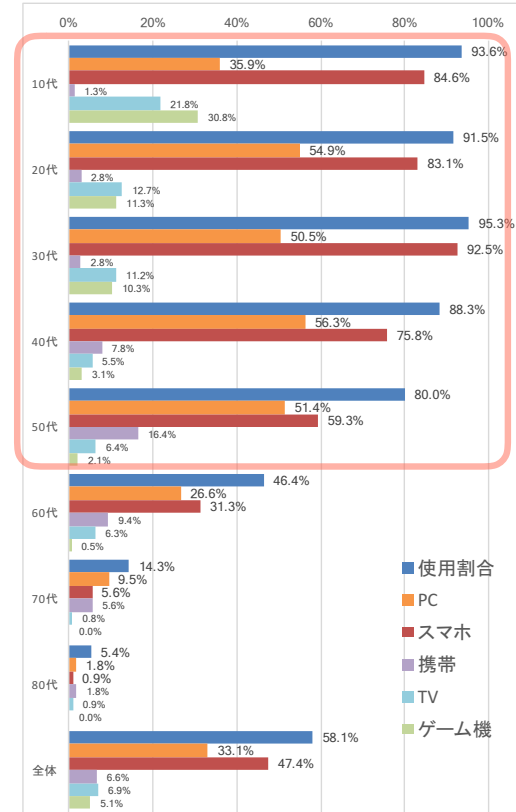
年代別インターネットの利用率



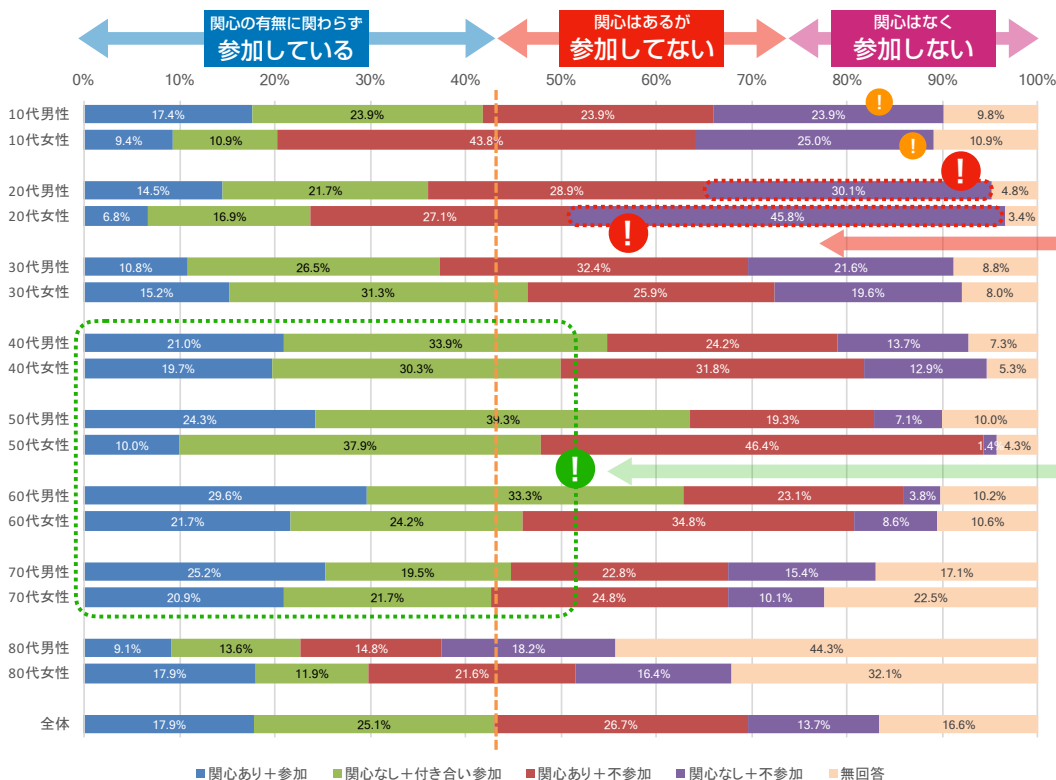
- 全体の半数以上がインターネットを利用。
- **40代以下は約9割**がインターネットを利用。（50代でも約8割）
- **大半がスマホ・携帯で利用**しており、若い世代ほどその割合は高い。
- 30代以下は**3人に2人以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での
情報伝達の方が効果的？！

年代別インターネット利用における使用機器



地域活動への関心



【注意！】
10・20代は、「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

20代女性：45.8%
(全世代で1位)
20代男性：30.1%
(同2位)
10代女性：25.0%
(同3位)

将来的に
大丈夫か？

現状は
40～70代
が頑張っているで回っている状態。

【女性】10代 (43.8%)
20代 (27.1%)
30代 (25.9%)
40代 (31.8%)
50代 (46.4%)
60代 (34.8%)

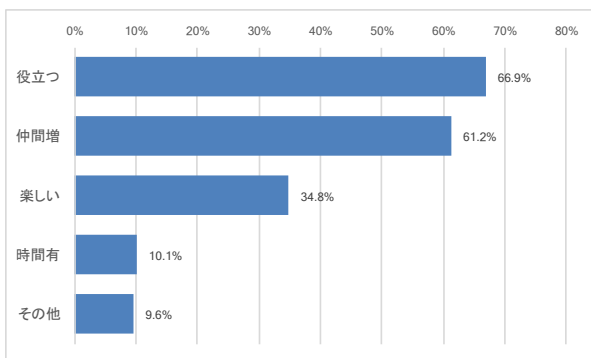
【男性】20代 (28.9%)
30代 (32.4%)

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではない

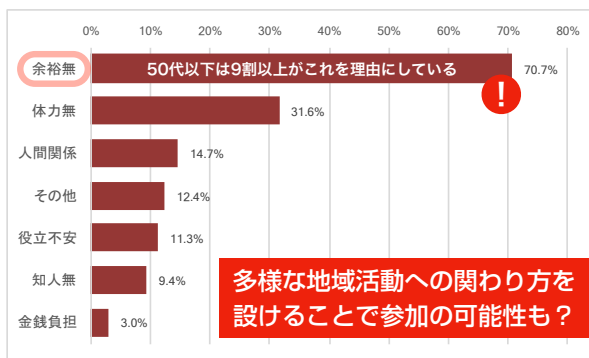
「関心があっても参加していない」割合が高い世代には、その理由を探ることが大切！

地域活動への関心（それぞれの理由）※複数回答

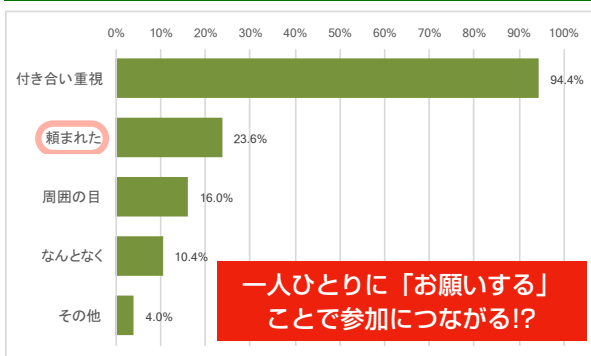
関心あり+参加の理由（回答数178）



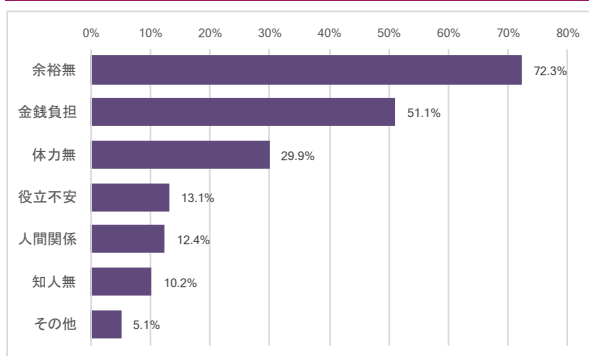
関心あり+不参加の理由（回答数266）



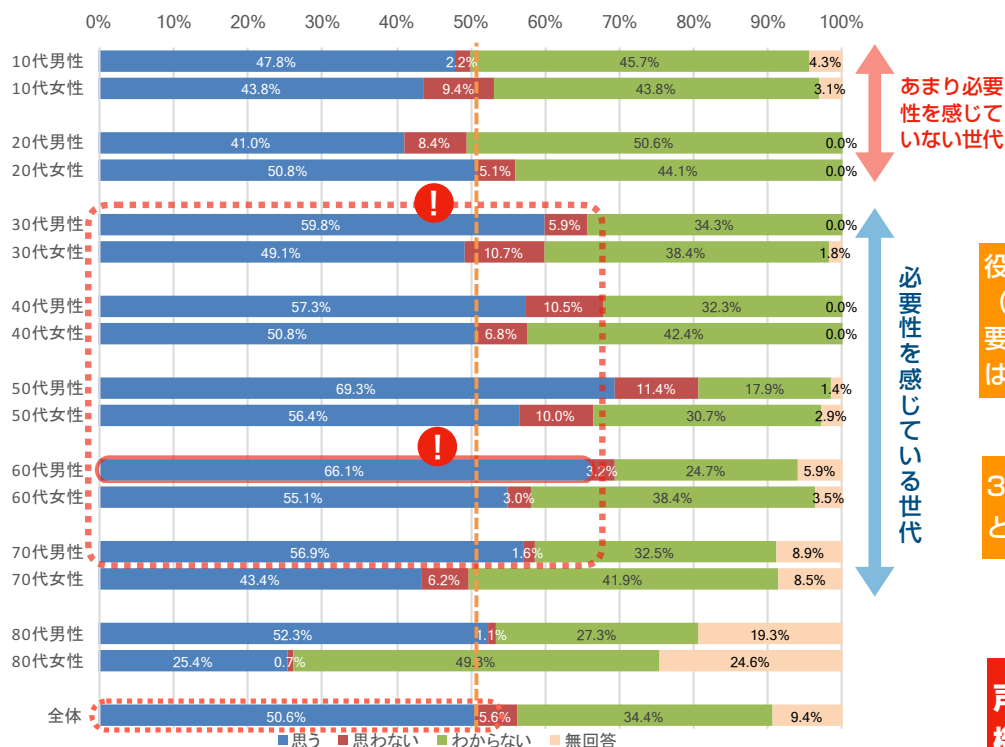
関心なし+付き合い参加の理由（回答数250）



関心なし+不参加の理由（回答数137）



女性・若者の声を反映する必要性（年代別×男女別）



役員を担っている世代（60代男性）は「必要」と考えている割合は6割超。

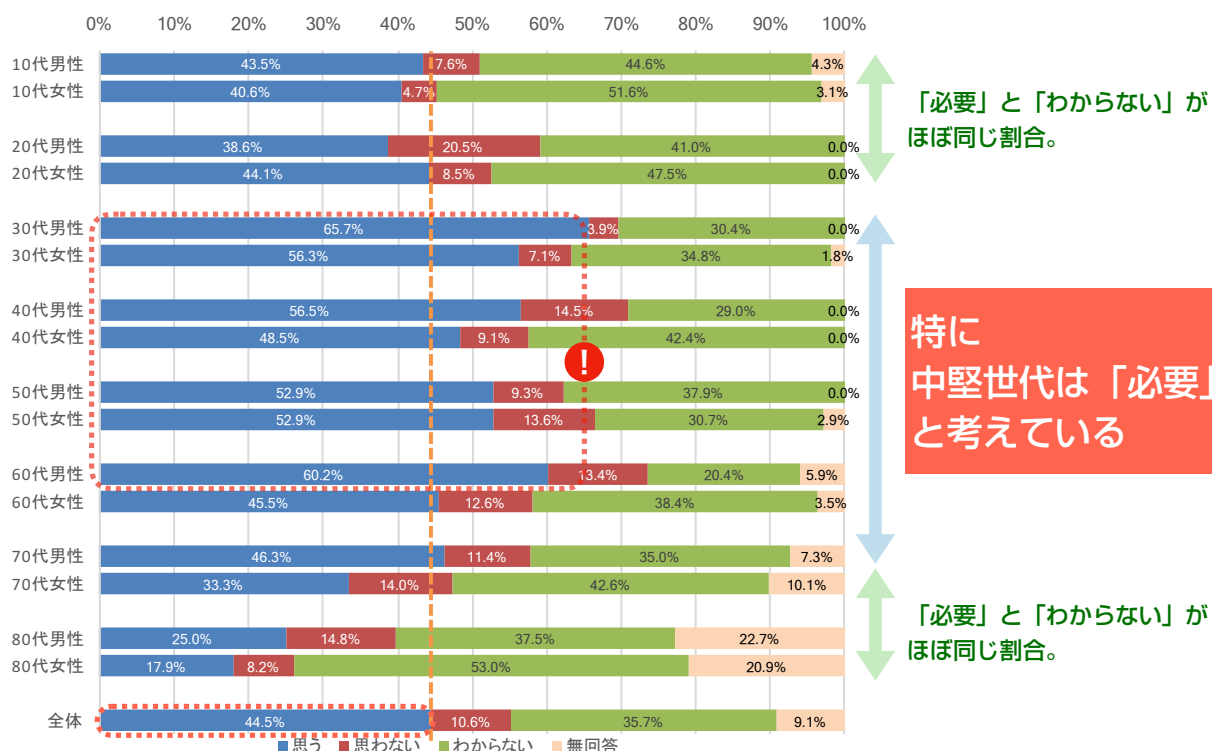
+

30代以上は「必要」という割合が半数以上

声を反映させる場・機会の充足が求められている！

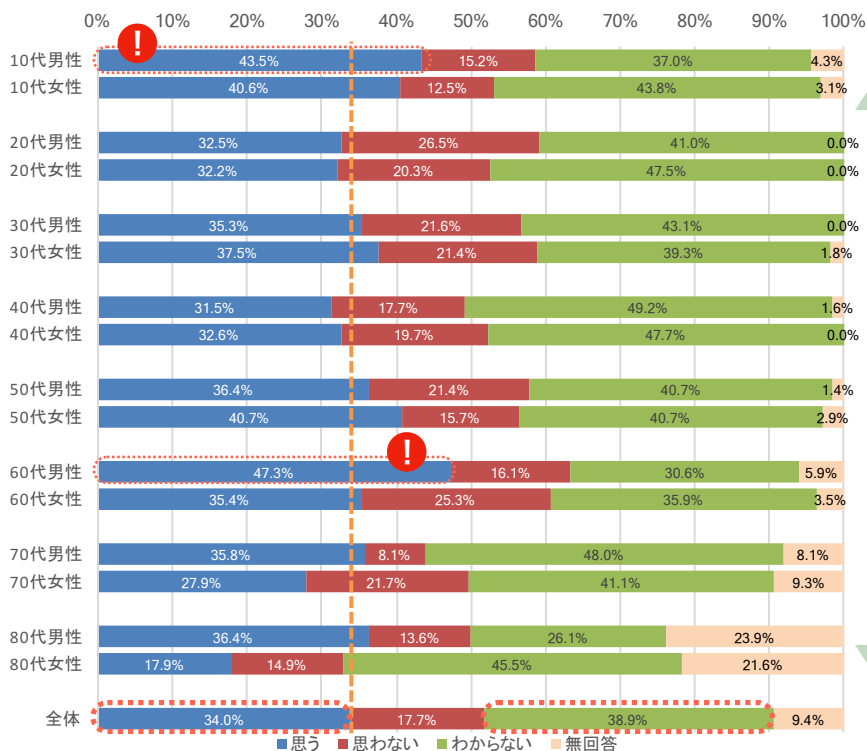
地域全体では半数以上が「必要」と考えている。

定住受入の必要性（年代別×男女別）



地域全体では4割強が「必要」と考えている。

他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)



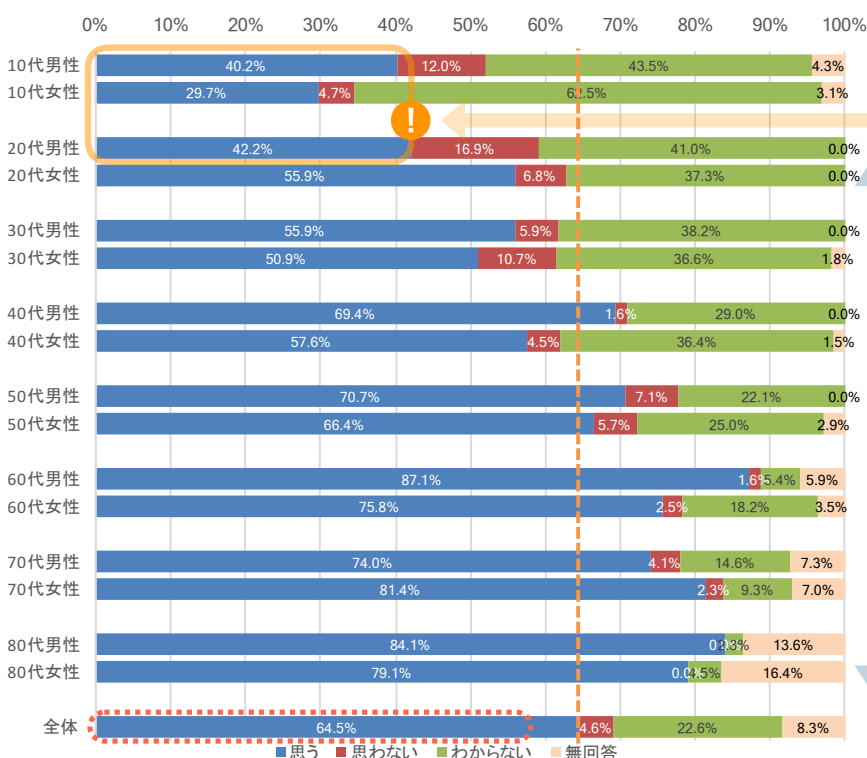
大半の世代で「わからない」が一番多い。

ただし「必要」という意見もそれに近い割合。

10代・60代男性は「必要」と考えている割合が高い。

地域全体では1/3以上が「わからない」と回答。「必要」という考えもほぼ同じ割合。

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)



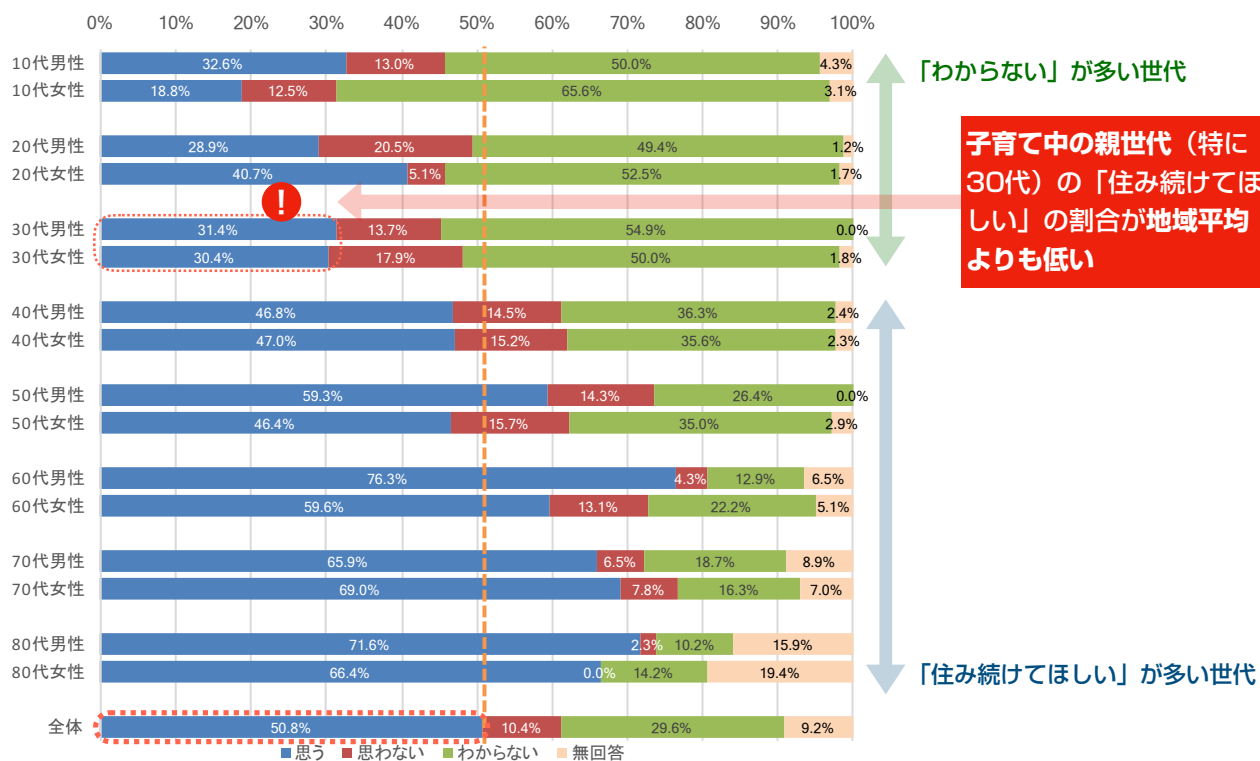
10代・20代男性は地区平均より低い

地域全体での平均値との差は大きくない

この値はかなり高水準

地域全体では約2/3が「住み続けたい」と思っている！

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？（年代別×男女別）

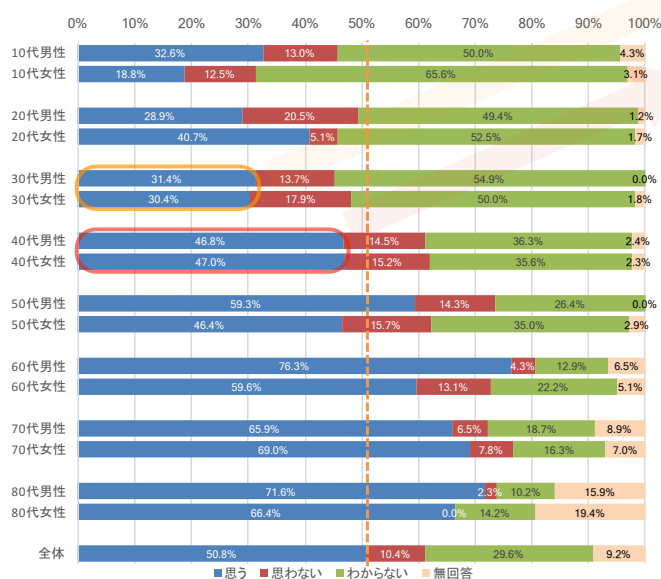


地域全体では「住み続けてほしい」が50.8%

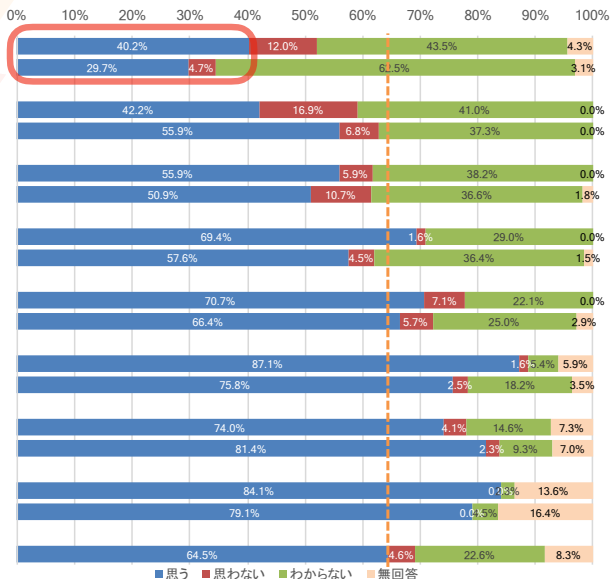
子育て中の親世代（特に30代）の「子どもにも住み続けてほしい」の割合が地域平均よりも低い

10代の「この地域に住み続けたいと思う」割合は、地域平均より低い

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？（年代別×男女別）

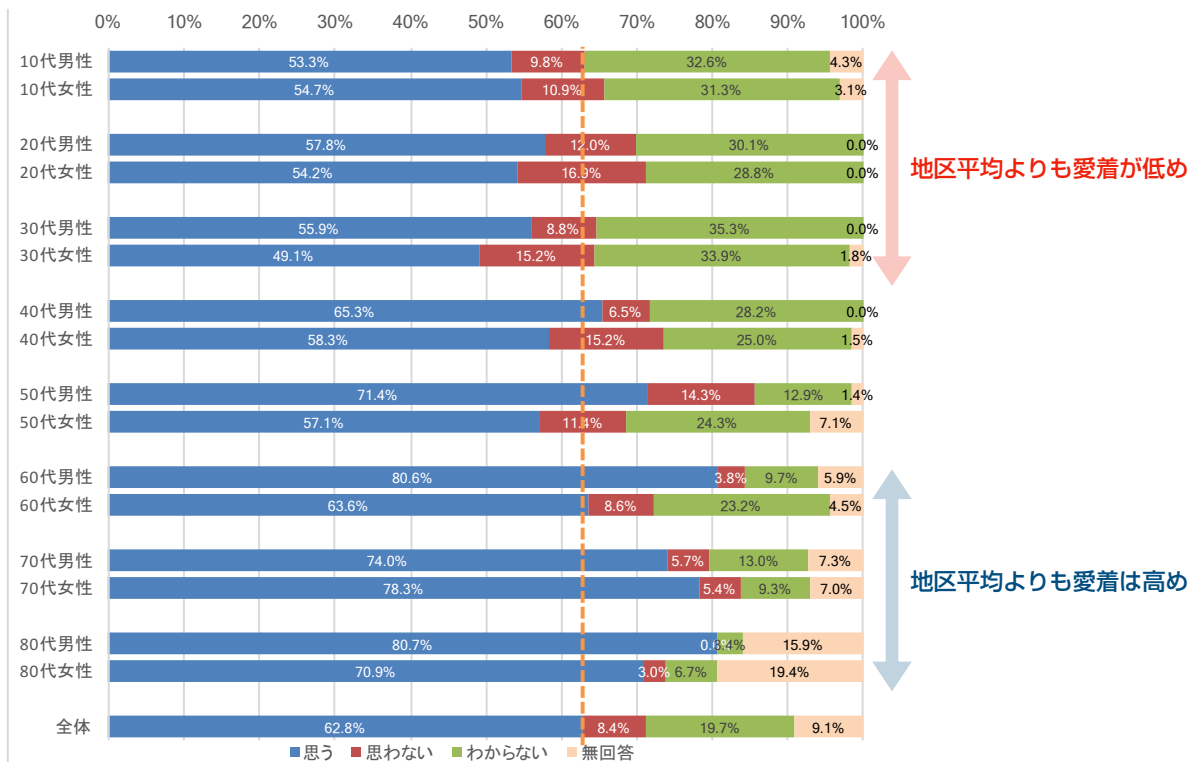


この地域に住み続けたいと思うか？（年代別×男女別）



親世代の考えが、子に影響する可能性があるので注意が必要！

地域への愛着の有無（年代別×男女別）



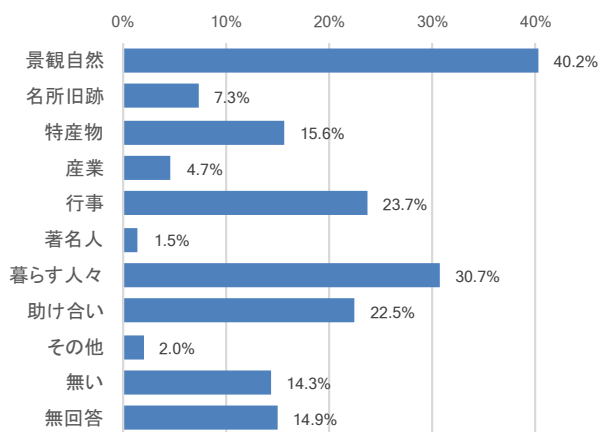
世代間のギャップも大きくはない

「愛着がある」は62.8%

決して低い数値ではない！

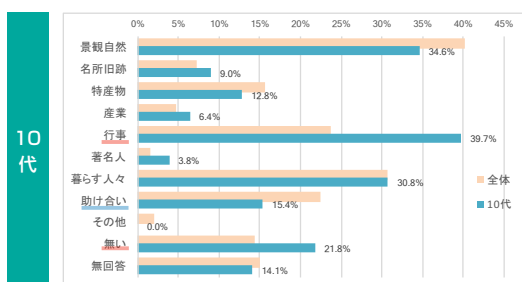
誇りに思う地域資源は何か（10～40代）

地区全体（複数回答）

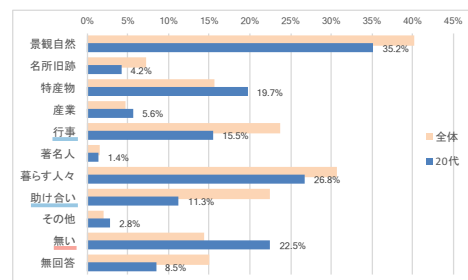


地区平均よりも高い

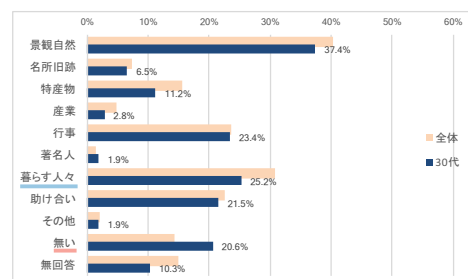
地区平均よりも低い



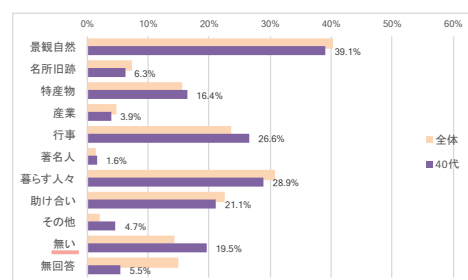
20代



30代

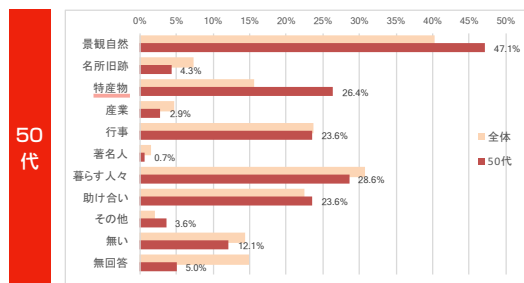
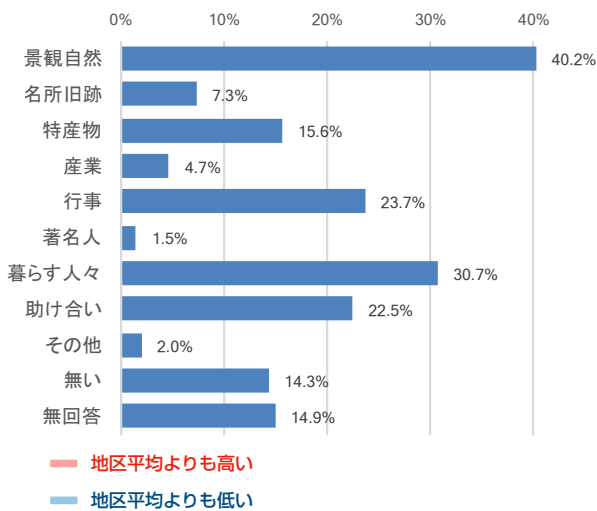


40代

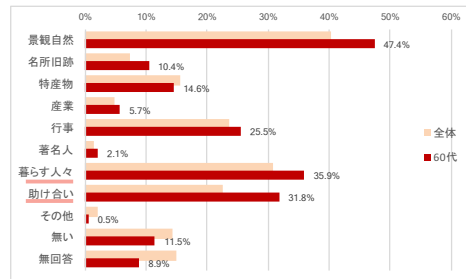


誇りに思う地域資源は何か（50代～）

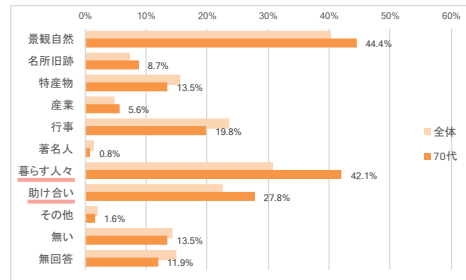
地区全体（複数回答）



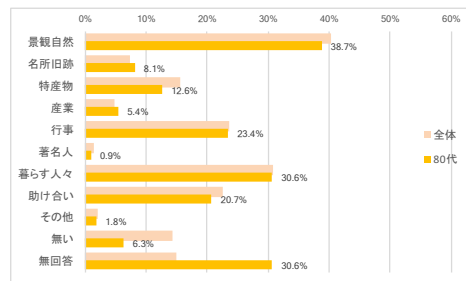
60代



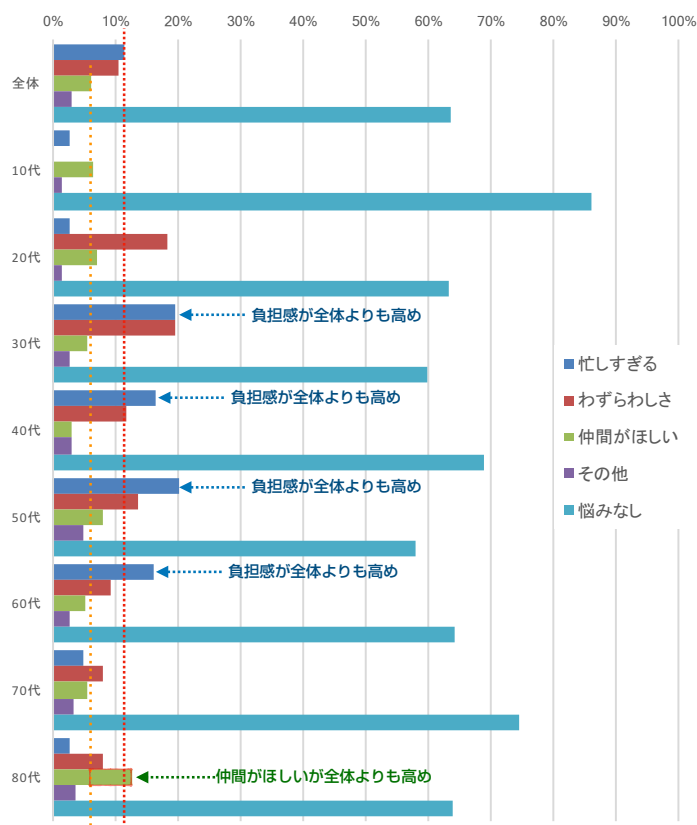
70代



80代



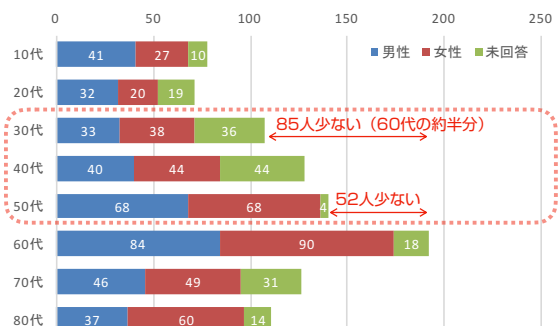
近所づきあいでの悩み



- 全体の6割近くが「悩みなし」

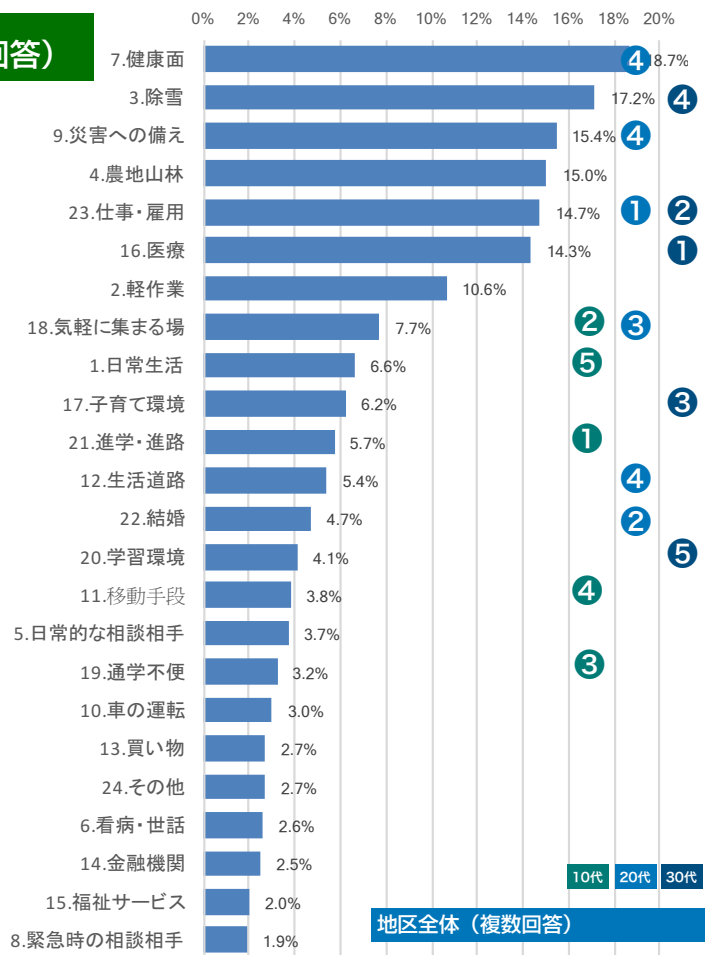
- 30～60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりも高い。

人は減っているのに、役割・仕事量が変わってなければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなるのでは？



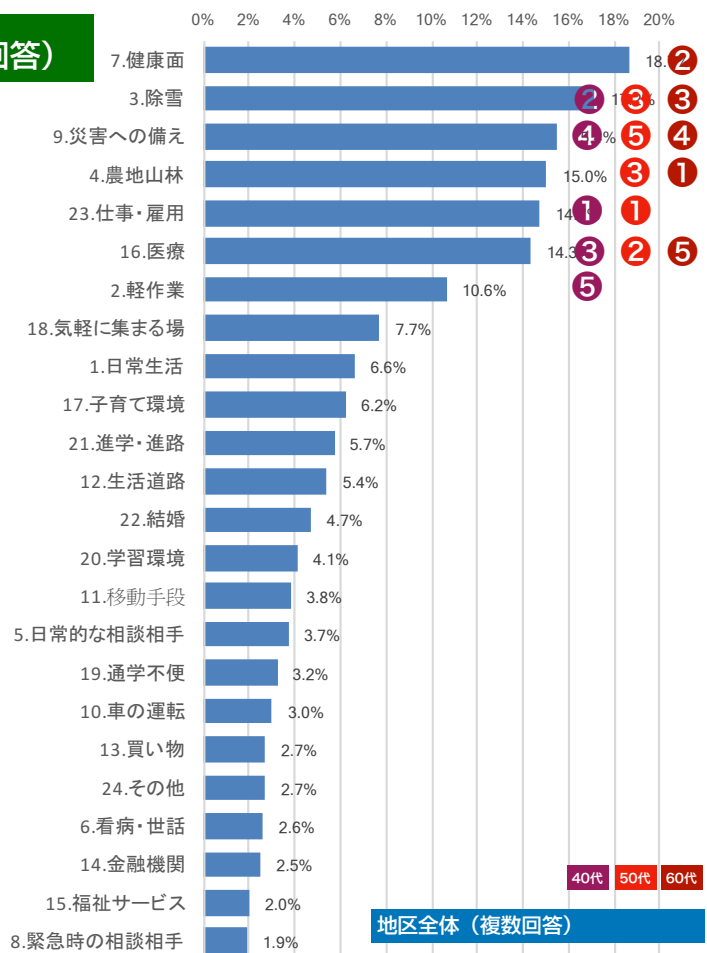
暮らしの中の困りごと（複数回答）

10代	10代	
	1 進学・進路	38.5%
	2 仲間と気軽に集まる場所がない	12.8%
	3 学校が遠く、通学が不便である	10.3%
	4 買い物・通院などの移動手段（交通手段）	2.6%
	5 食事づくり、洗濯、ゴミ出しなどの日常生活	5.1%
20代	20代	
	1 仕事・雇用	31.0%
	2 結婚	23.9%
	3 仲間と気軽に集まる場所がない	21.1%
	4 健康面への不安がある	9.9%
	災害への備えや避難	9.9%
	生活道路などの環境整備に関すること	9.9%
30代	30代	
	1 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	24.3%
	2 仕事・雇用	23.4%
	3 少子化による遊び相手の確保など子育て環境	16.8%
	4 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	14.0%
	5 小学校・中学校が少人数であり、学習面の競争が	13.1%



暮らしの中の困りごと（複数回答）

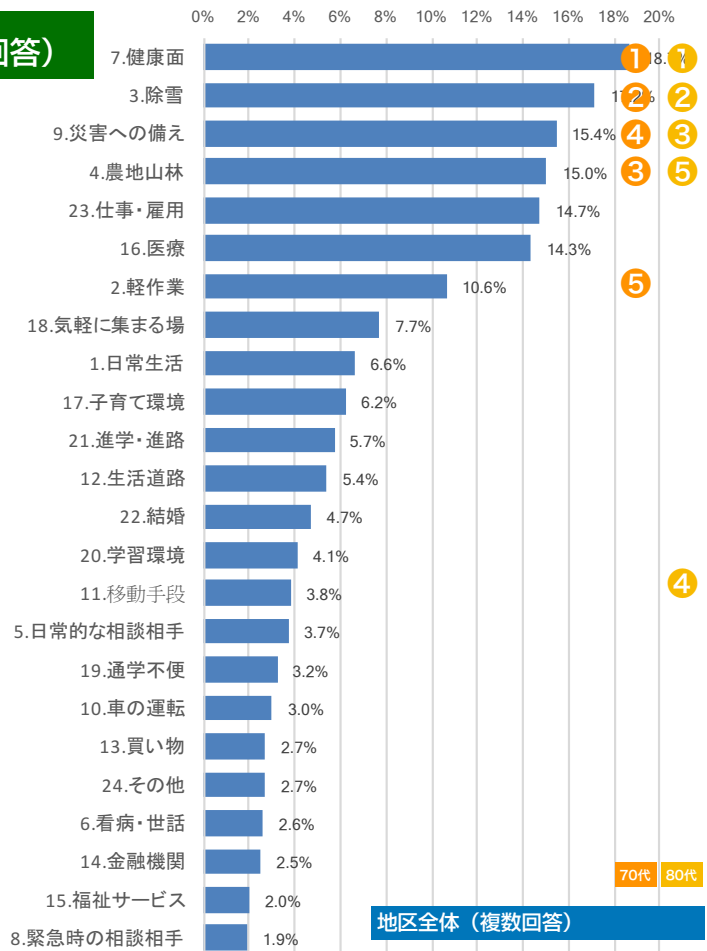
40代	40代	
	1 仕事・雇用	26.6%
	2 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	20.3%
	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	20.3%
	4 災害への備えや避難	19.5%
	5 庭作業（草取り）、電気器具修理など軽作業	13.3%
50代	50代	
	1 仕事・雇用	25.0%
	2 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	24.3%
	3 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	22.9%
	農地、山林の維持管理	22.9%
	5 災害への備えや避難	20.7%
60代	60代	
	1 農地、山林の維持管理	24.5%
	2 健康面への不安がある	22.9%
	3 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	17.2%
	4 災害への備えや避難	15.1%
	5 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	14.6%



暮らしの中の困りごと（複数回答）

70代		
1	健康面への不安がある	31.7%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	28.6%
3	農地、山林の維持管理	25.4%
4	災害への備えや避難	24.6%
5	庭作業（草取り）、電気器具修理など軽作業	15.9%

80代		
1	健康面への不安がある	37.8%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	17.1%
3	災害への備えや避難	14.4%
4	買い物・通院などの移動手段（交通手段）	11.7%
5	農地、山林の維持管理	9.9%



暮らしの中の困りごと（まとめ）

第1位 健康面への不安がある 18.7%

70・80代でトップ（60代は第2位）

→自分の健康について不安視している人が多い

第2位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 17.2%

30代以上で上位にランクイン（40・70・80代は第2位）

→40代は除雪の「担い手」という立場で、

70・80代は自身の困りごととしてあげられている？

第3位 災害への備えや避難 15.4%

ほぼ大半の世代で上位にランクイン

次点 農地や山林の維持管理のこと 15.0%

50代以降になると上位にランクイン（60代は第1位）

暮らしの中の困りごと（まとめ）

全体での順位は
高くはないが、
若者・中堅世代
特有の困りごと

特に注意すべき
80代以上の困り
ごと

第5位 仕事・雇用 14.7%

20～50代はこれが上位（20・40・50代：1位／30代：2位）

第6位 医療体制に不便を感じる 14.3%

30～60代ではこれが上位（30代：1位／40・50代：2位）
→子育て、親の介護という面での困りごと!?

第8位 仲間と気軽に集まる場所がない。 7.7%

10～20代で上位にランクイン（10代では第2位）

第13位 結婚 4.7%

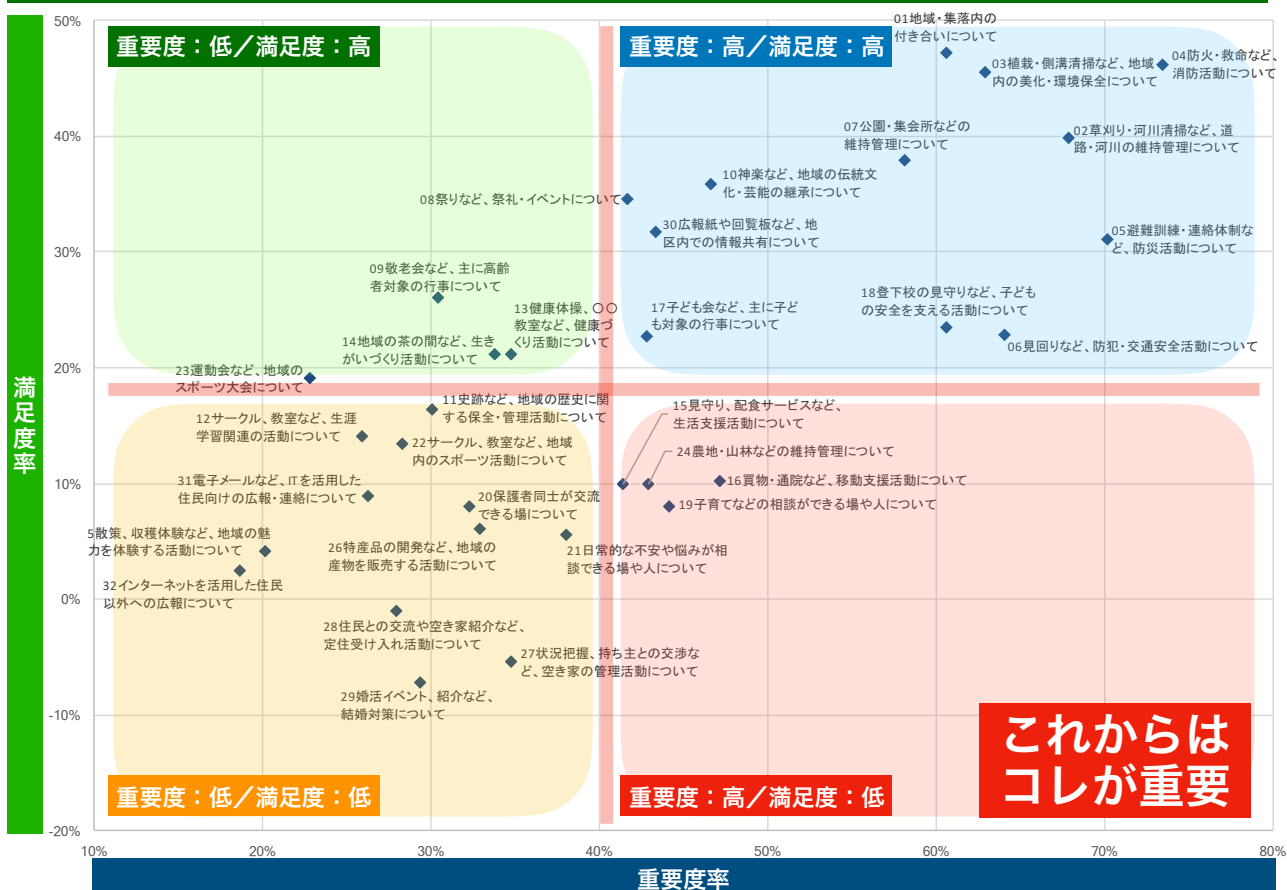
20代のみ上位にランクイン（第2位）

第15位 買い物・通院などの移動手段（交通手段） 3.8%

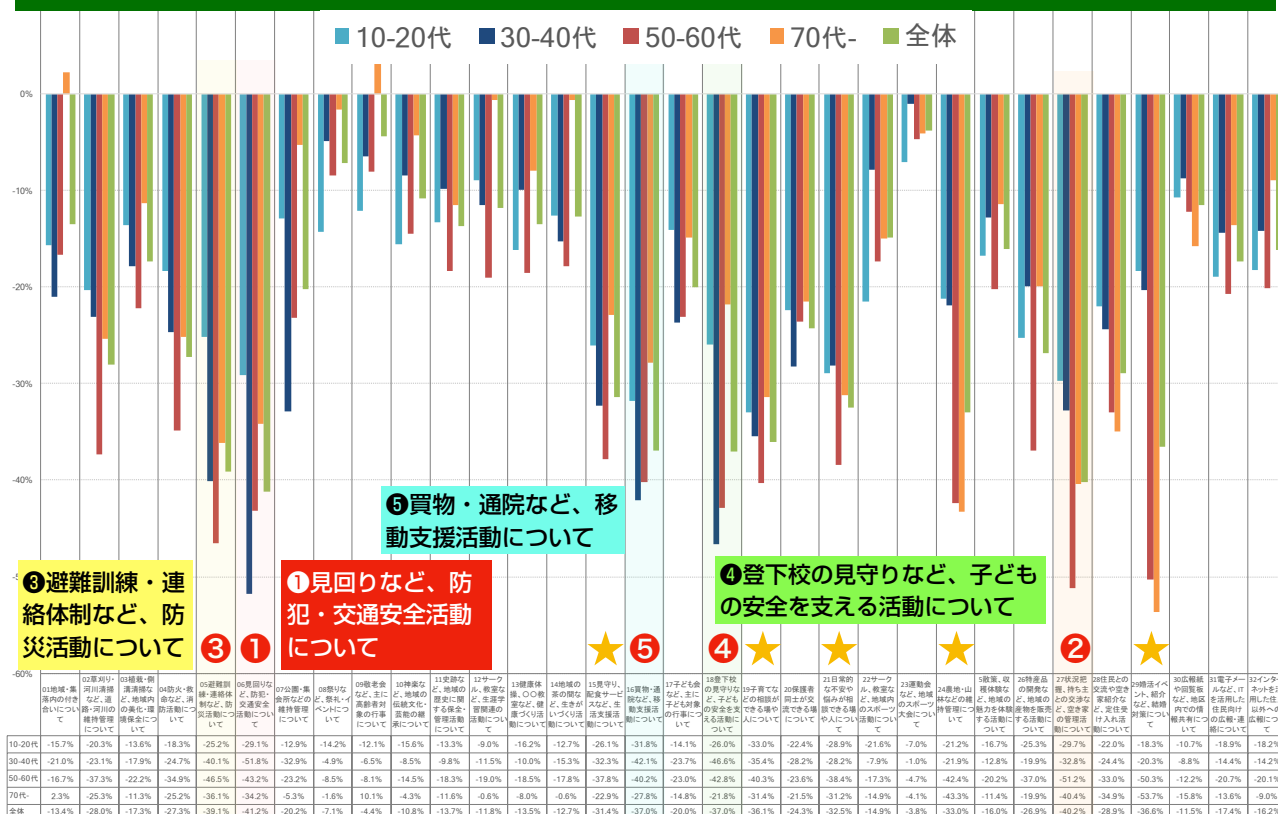
80代のみ上位にランクイン（第4位）

10～20代の若者世代や80代以上の高齢世代など、
多数派ではない世代の意見を丁寧に着目することも重要。

取り組みの満足度と重要度



取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）



※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある
（＝現状では満足しておらず、これからは重要だと思う）項目

②状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について

取り組みの満足度と重要度の評価（まとめ）

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

①見回りなど、防犯・交通安全活動について

30～60代は圧倒的に将来に向けてこれが大切だという評価。

②状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について

50代以上はこの必要性を強く感じている。

③避難訓練・連絡体制など、防災活動について

30代以上はこの必要性を感じている。

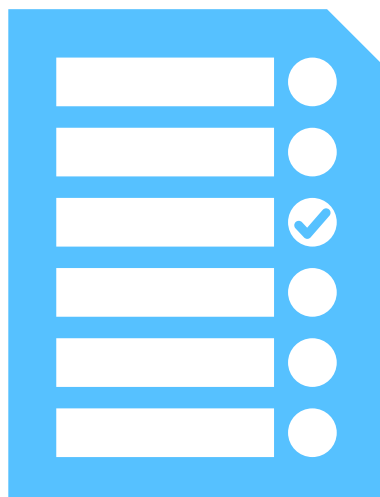
④登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動について

30～60代はこの必要性を強く感じている。

⑤買物・通院など、移動支援活動について

30～60代はこの必要性を強く感じている。

◎将来を見据え、力を入れていくべきだと考えられている項目



【30～60代が重要だと思っているもの】

★見守り、配食サービスなど、生活支援活動について

【50代以上が重要だと思っているもの】

★農地・山林などの維持管理について

★婚活イベント、紹介など、結婚対策について

【10～60代が重要だと思っているもの】

★子育てなどの相談ができる場や人について

★日常的な不安や悩みが相談できる場や人について

アンケート結果から見えるポイント①

☑農業従事者の82.1%が60代以上。

▶ 20年後は60人程度!? (現在は157人)

将来的に農地の維持管理はどうする？

☑80代になると車を運転する人の割合が減少。(70代→80代 男性は18.0%、女性は50.7%減少している)

▶ 日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加していく。

将来への備えとして、
移動支援を今から考
えていく必要はある
のではないかな？

☑高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識されている。

▶ すでに80代の困りごとの上位には「買い物・通院などの移動手段（交通手段）」が上がっている。
▶ 今後取り組むべき重要テーマとしても第5位に移動支援が上がっている。

☑全体の半数以上がインターネットを利用

▶ 50代以下は約8割（40代以下は9割）がインターネットを利用しており、大半がスマホ・携帯での利用。

50代以下はインター
ネット経由での情報
伝達の方が効果的?!

アンケート結果から見えるポイント②

☑必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではないではない。

- ▶ 女性は10～60代が、男性は20・30代が、「関心はあるが参加していない」の割合が高い。
- ▶ 「関心あり＋不参加」の理由の第1位は「余裕が無い」。こう回答した10～50代は、9割以上がこれを理由にあげている。
- ▶ 「関心なし＋付き合いで参加」の理由では、第2位に「頼まれた」が来ている。
- ▶ 現状は40～70代の方々が頑張っているので地域活動が回っている状態。

多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性は十分にあるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

☑20・30代は、地域活動に「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

- ▶ 次の次の世代（10～20代）の意識・考え方は、今の中堅以降の世代とはかなり違う。（育ってきた環境・社会背景が異なるのである意味当然のこと）

こうした世代の人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは？

アンケート結果から見えるポイント③

☑役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと思っている。

- ▶ 役員を担っている世代（60代男性）は2/3が「必要」と考えている。
- ▶ 30代以上も半数以上が「必要」と考えている。

お互いにその気はある！声を反映させる場・機会の充足・工夫が必要。

☑移住・定住者の受け入れが必要と考えている割合は約4割

- ▶ 30～60代は半数以上が「必要」と考えている。

☑他地域との交流の必要性については、地域全体では1/3以上が「わからない」。ただし「必要」という考えもほぼ同じ割合。

- ▶ 10代と60代の男性は、「必要」と考えている割合が高い。

必要性は薄々感じているが、今ひとつ実感がないので「わからない」という人が多い状況。

アンケート結果から見えるポイント④

☑️地域全体で約2/3（かなり高水準）が「この地域に住み続けたい」と考えている。

- ▶ 30代以上は、地域全体での平均値との差は大きくない。
- ▶ ただし、10・20代は地域平均よりも低い。

☑️「自分の子どもにも住み続けてほしい」と思っている人の割合は全体の5割。

- ▶ ただし、子育て中の親世代（特に30代）の「住み続けてほしい」の割合が地域平均以下。

☑️全体の6割以上が「地域への愛着がある」。

- ▶ 世代間の差もあまり大きくない。

☑️近所づきあいについては、6割近くが「悩みなし」。

- ▶ ただし、30～60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりも高い。

親世代の考えが、子に影響する可能性があるため注意が必要！

決して低い数値ではない！

人は減っているのに、役割・仕事量が変わっていなければ、負担感が増すのは当然。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなる可能性大。

アンケート結果から見えるポイント⑤

☑️暮らしの中の困りごとトップ3は、

- ①健康面への不安がある
- ②屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪
- ③災害への備えや避難
- ④農地、山林の維持管理

☑️今後、重点的に取り組むべきテーマトップ5は、

- ①見回りなど、防犯・交通安全活動
- ②状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動
- ③避難訓練・連絡体制など、防災活動
- ④登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動
- ⑤買物・通院など、移動支援活動

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。（特に若年層）若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。